

# 経営比較分析表

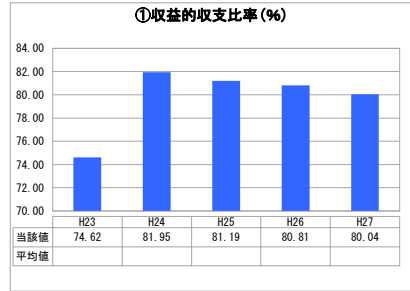
岡山県 津山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D3	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	2.61	105.32	3,387

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
103,954	506.33	205.31
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,689	1.06	2,536.79

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成27年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



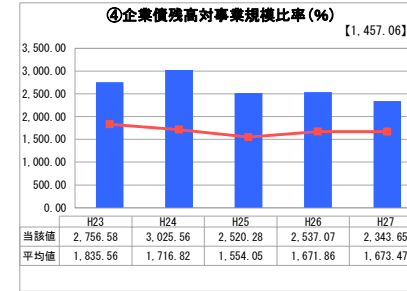
「単年度の収支」



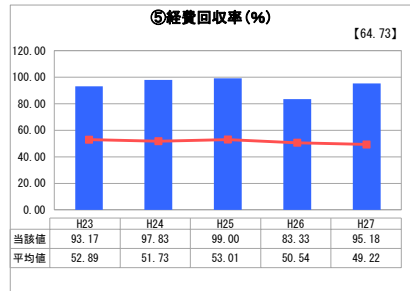
「累積欠損」



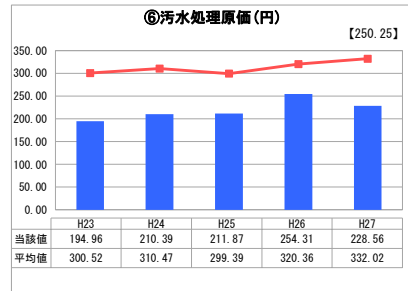
「支払能力」



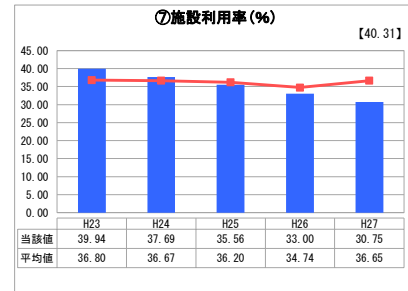
「債務残高」



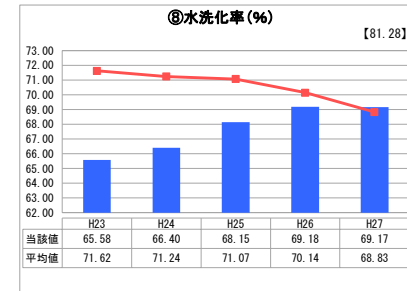
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

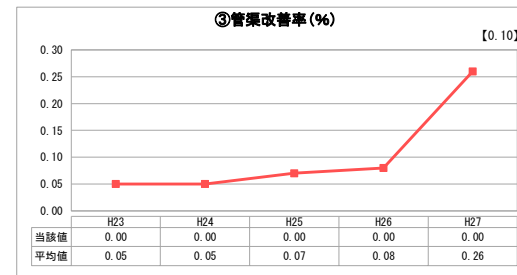
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

旧加茂町において事業を平成14年度から実施し、平成26年度に計画区域を変更(拡大)。管渠の整備については、平成31年度に完了予定。  
 計画区域内人口3,360人に対して、平成27年度末で1,860人が下水道を利用している。平成23年度末は1,744人と5年間で利用人口は増加しているが、利用者の高齢化、節水型設備の普及等により、有収水量は微減傾向にある。  
 下水道使用料は、平成17年度の市町村合併後、公共下水道事業と同じ料金体系とし、平成24年4月1日の料金改定直後は増収したが、有収水量が減少した影響で、平成27年度の使用料収入は減収、収支比率も微減となった。この傾向は、今後も続く予想される。  
 汚水処理費の内訳は、処理水量の増減に無関係の固定費(運転管理委託料等)と、処理水量で変動する費用(動力費等)に大別されるが、そのうち7割が固定費となっている。

### 2. 老朽化の状況について

管渠については問題ないが、平成14年度に供用開始した加茂町浄化センターは、平成30年度に長寿命化計画を策定予定であり、その後は順次、改築更新を行っていく。

### 全体総括

平成30年4月から企業会計一部法適用となり経営状況についてより鮮明になる予定だが、当事業のように規模の小さい処理区では、特に固定費の負担が重く、経費回収率、汚水処理原価は公共下水道事業以上に厳しい状態にある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。